

平成 27 年度まちづくり懇談会会議録【町部地区】

日 時 平成 27 年 11 月 6 日（金） 19：00～20：20
会 場 町部地区センター
参加者 62 人

※「今後のまちづくりについて ～人口減少社会への対応～」と題した説明のあと、参加者の皆さまとの懇談（質疑応答）に入りました。

※会場からのご意見・ご質問

「①菊川市まち・ひと・しごと 創生総合戦略」についての所感・ご意見

●緑ヶ丘・男性

これは、市長にお答えをいただきたい。駅周辺のまちづくりの推進とありますが、菊川駅の北口及び駅北地区の将来の構想について、我々駅北に住む人間としては、今から 30 年ほど前にもこういう市政懇談会のときに要望したが、菊川駅の北口をぜひ作って欲しい。そうしないと、今、駅北の旧旭テックの跡地に大きな集合住宅やアパートなど建設されていますけど、目の前に駅があっても、西側の菊川踏切を渡るか、東側のアンダーパスを行かなければならない。したがって、我々としては、駅の北口の設置について非常に関心を持っているが、具体的にどの程度まで駅北の事業は進んでいるのか。ご説明をお願いします。

○市長からの回答

町部地区の懇談会では度々その話をお聞きしておりますが、まず駅の北側の皆さんにしてみれば、北口、橋上駅が欲しいということは私も分かっております。しかし、今まで駅の北側には旭テックさんという優良企業がございまして、なかなかそのあたりの土地利用は難しかったところが事実としてあります。

最近の駅の北側の構想につきましては、平成 25 年に駅南の土地区画整理事業が完成したのと同時に、その次には駅の北口ということで、JR アンダーも完成しましたし、これからどのような土地利用をしていくか、地域の皆さんがどのような土地活用をしていきたいのか、そういったことをきちっと聞きながら、そして、駅の北側の人だけでなく市民の皆さんが、望まれるような駅の北口の開発をしていきたいと思っております。申し上げたとおり、すでに総合計画の中でも

駅北の構想については検討しておりますし、これから総合計画の中にしっかりと位置づけをして、事業の計画を図っていきたいと思っております。

●緑ヶ丘・男性

くどいようですが、私がこういった市政懇談会の度に質問をして、もう30年も経つんですよ。今この中にそういった計画があるといっても、少なくとも3年後までには完成させますとか、完成させる予定ですとかはっきりしたお答えをいただきたいと思います。

○建設経済部長からの回答

今、具体的に何年にできるのか、そういうご質問でしたが、はっきり申しましてお答えするのが非常に難しいです。駅北口といいましても、事業費としても大きく30億とか安くて10数億という話もありますが、それだけ費用がかかってしまいますし、特にJR東海さんとの協議が非常に難しい協議となりまして、JR東海さんと協定を結ぶだけでも何年もかかってしまいます。こんなことから何年にできるかということには、お答えできないのが実情です。それで、私の方からご説明させていただきたいのが、駅北構想として市がどのように進めているのかということ。この点について少し説明します。

今年度から駅北構想の構想案を作るということで、業務委託を発注しております。その区域はJR東海道線よりも北側で、新幹線よりも南側、柳町の区画整理をやったところが東側の境、西側が県道伊達方線という四角に囲まれた、だいたい200ヘクタールの地区を対象に構想案の策定をしております。これを5年間ぐらいかけて、まずは、現況の土地利用であるとか道路形態がどうかといった、現状把握をするというところから始めまして、この総合戦略にも載せてありますので、なんとか5年以内には構想案を作る中で、駅の北口についてもきちっとした方向性を定めたいと考えて進めているところであります。本当に何年もかかってしまっただけで申し訳ないということもありますが、こういった事情をご察しただけであれば幸いです。

●初咲町・男性

少子化とか人口減少や高齢化、東京一極集中、大きな柱を立ててご説明いただきまして、その流れはよく分かりましたけれども、少子高齢化の中でもう一つ問題になるのが、福祉の関係。福祉という言葉が出てこなかったのですが、例えば介護保険、保険料が年々少しずつ上がるわけですが、それから健康保険であるとか、そうしたことも少子高齢化はもろに関係があるわけですね。それで、福祉関係については説明の中に一切なかったのですが、これは当然福祉計

画というのを市では導入しましたので、そちらを見れば分かるわけですが、ここで触れなかったのはどういうわけかということが1点。

それからもう一つは言葉の問題ですが、パブリックコメントの時も少し言ったのですが、「抜群な子育て環境」と書いてあるが、これは注意を引くためにはいいのですが、例えば「恵まれた子育て環境」など、ほかにも表現があると思うが、抜群とした意図。それから2番目の「贅沢な自然環境」というのは、どうしたことを意味しているのか。普通なら「豊かな自然環境」とするのが考えやすいと思うが、普通の答申の中には見られない言葉だと思いますが、あえてこういう言葉を使った意図を教えてくださいたいと思います。

○企画財政部長からの回答

まず二つ目のご質問からお答えをさせていただきます。今回の地方創生はまち・ひと・しごと創生法という国の法律に基づいて全国の自治体、これは、都道府県も市町村も全ての自治体がこの総合戦略を作ることになりました。基本的に国は、この総合戦略の基本目標を地方が成長する活力を取り戻す人口減少を克服するという基本的な視点として、若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現。それから東京一極集中の歯止め、それから地域の特性に即した地域課題の解決といったことを基本的な視点として全国の自治体が総合戦略の策定に取り掛かりました。

そうしますと、今全国に自治体が1700を超える自治体があるのですが、同じ視点で作っていくとどうしても独自性が出ないということがあります。私どももこれは職員だけが作ったわけではなく、各界の代表の方々に審議会を作ってくださいそこで、ご審議をしていただきながら作ったわけですが、確かに先生がおっしゃられた、抜群とか贅沢という言葉については、色々な意見がありました。今回はやはり菊川市の特徴を活かしたいということと、言葉自体にもインパクトを持たせたいという意味で、ここは意図的にあえて、我々は菊川市の子育て環境はいい水準に来ていると思いますので、あえて「抜群な」というインパクトのある言葉を使わせていただきました。また、贅沢な自然環境につきましても、言われたように一般的には豊かな自然環境というのが一般的だとは思いますが、菊川市の市民にアンケートをとってみても菊川市のいいところは豊かな自然があるところだというご意見がたくさんありますので、ここもあえて「贅沢な」という言葉に置き換えをさせていただきました。中には違和感を覚える方もあろうかと思いますが、私どもとしては、あえてインパクトのある言葉を選ばせていただいたということでご理解をいただきたいと思えます。

○健康福祉部長からの回答

ご質問の一部、なぜ福祉を載せなかったというところは、企画財政部長からお話があったとおりでございますが、ご質問にあった介護保険、そのところは、先ほどの表等でご覧になったとおり、高齢化が進んでまいりますので、やはり少しずつは（金額が）上がってくるのではないかと考えております。それにつきまして、3年間のスパンで動いておりますので、そのところで見直しをかけていくということになっております。

それから地域福祉計画につきましては、28年から5年間の計画ということで只今作成中でございますので、できましたら皆さんに広報等でご報告していきたいと考えております。今日のテーマであります、菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中ではB面の④になるかと思いますが、要介護支援者の割合を少なくしようというひとつの事業として、プラステンでロコモ予防ということで掲載をさせていただいたところがございます。これが何かと申しますと、日常生活の中で10分間運動をしていただきまして、健康な体でご長寿を迎えたい。そういったことで介護保険の関係の事業としてプラステンロコモ予防ということで載せさせていただいているところであります。今回の総合戦略については、特出しして載せていなかったということになります。

●緑ヶ丘・男性

この人口減少社会への対応で、人口減少に歯止めをかけると聞いています。それは分かるのですが、ただ人口減少（社会が実際）にきていますよね。それについてはどういうふうにご考えていらっしゃるのですか。そのところの具体的なものがちょっと出てこなかったのかなと思うのですが。歯止めをかけることは、どこの市町村も婚活とかをやっている。ただ、減っていることに対して、総合戦略としてどんなことをしていくのか。

○企画財政部長からの回答

菊川市の人口も実際に減少の傾向に入ってきております。確かにおっしゃるとおり、これからの総合戦略において、その対策、視点としては、ひとつは人口減少を抑止していく、いわゆる歯止めをかけるという視点。それからもう一つは、おっしゃるとおり、人口減少の社会にいかに対応していくかという視点も大事だと思っております。私どもも政策としては、こうした2つの視点、それからもう一つ、出生・死亡で表される自然の増減。ここにおいていかに出生を増やしていくか、そしていかに高齢者には元気で長生きしていただくか。もうひとつは社会的な増減。これは転入・転出ですが、これは市の魅力を発信していかに多くの人に転入をしてもらうか。そして若い人の転出をいかに抑えて

いくつか、そうした多面的なところでいろんな政策を打っていく中で、相乗的な効果が現れてくると思っております。人口の減少に対応していくには、資料2にも関わってきますが、公共施設のこれからのあり方、こうした政策もこれからの人口減少社会にいかにかが対応していかなければならないのかという視点も大事だと思っておりますし、今後取り組んでいきたいと思っております。

●市外・男性

拔群な子育て環境で、医療のことに関して何も書かれていないが、やはり子を持つ親としては、拔群な子育て環境という中に医療がないのは不安が残るのかなと思うことと、やはり市立病院に小児科医がないという点については、どこまで把握されているのかなという点についてお伺いしたいです。

○病院事務部長からの回答

小児科医につきましては、昨年8月までは2名いたのですが、ひとりの先生が産休で退職され、もうひとりの先生が、専門医を作るということで、医師を集中させなくてはならないという施策がありまして、隣の中東遠総合医療センターに移りまして、そこで6、7名の小児科医がグループで診療をするということになりました。小さな病院で先生が1人ずつ2人ずついるというのは、先生にも負担になり、専門の先生も育たないということで、今回中東遠に6名の先生が行きまして、当院については、0人になり非常勤の先生だけでやらせてもらっています。

菊川病院にはそういった先生はいませんが、中東遠とこのあたりの病院は当院を含めて全て連携しておりますし、隣の病院では充実しておりますので、もし何かあったときはそちらで広域的な診療をさせていただくという、流れになっております。当院についても、今後も常勤の先生がいらないというわけではなくて、将来的には、数年掛かってきたときにはおそらく戻ってきてもらえると思っておりますし、そういった努力はしておりますので、今しばらくご容赦願いたいと思っております。

「②菊川市の公共施設のこれから」についての所感・ご意見

ご意見なし

●その他「市役所東側の土地利用」についての説明

○市長から

今日のテーマとは少し違いますが、先般新聞に本庁舎東側の整備について記事が掲載されました。この東側の土地につきまして、今日は地元の皆さんですので、まだ具体的に今後の計画にはなっておりませんが、今、私どもとしましては、あそこの土地は駅南区画整理事業によって集積された土地であるということと、賑わいを生み出すということと、また、地元の皆さん、特に駅南の皆さんや自治会の皆さんに有効活用していただくということと、市民の皆さん全域の皆さんにも活用してもらいたいという思いで、数年前から検討を進めてまいりました。その中で、今回合併特例債を使う事業の中で、仮称ですが本庁舎東側の市有地の活用についての検討をしています。これから、当然行政サイドだけではなくて、地域の皆さんや自治会の皆さんやコミ協とか、あるいは色々な委員の皆さんと、情報を共有しながら、情報提供しながら、また皆さんの意見は聞けるところは聞きながら、地域の皆さんが使いやすい施設にしていきたいと思っておりますので、よろしく願いをしたいと思っております。

今度また機会がありましたら、担当部局の方から自治会など、施設の一部にはこの建物と同じ地区センターの役割を持たせる予定でもありますので、そのときにはまた皆さんにご相談させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いしたいと思います。色々な情報が飛び交うかも知れませんが、決して行政が一方的に進めるというつもりはございませんので、その点をご理解をいただきたいと思っております。今日はせつかくの機会でしたので私から情報提供させていただきました。

(閉会：20：20)